

# たまのよこやま

特集

三都県公開セミナー

「遺跡が語る天変地異」

平成31年度企画展示

始まる!!

# 遺跡が語る天変地異

## — 災害と歩んできた記録 —

本年度で11回目を迎える「東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団普及連携事業 公開セミナー」は、東京都埋蔵文化財センター、かながわ考古学財団、埼玉県埋蔵文化財調査事業団の各公益財団が、発掘調査や研究の成果を広く皆様にお伝えするとともに、それぞれの業務と役割について理解を深めて頂くことを目的に、平成20年度から毎年開催している事業です。

今回は、平成31年1月20日(日)に、横浜市南公会堂ホールにて開催しました。「遺跡が語る天変地異 - 災害と歩んできた記録 -」というテーマで、発掘調査により明らかとなった「災害痕跡」に焦点をあて、史料に残された記録と併せて、人々はこれまで災害をどう乗り越えてきたかということについて、主に考古学の視点から、災害・復旧の歴史をたどるといふものです。

災害痕跡とは、発掘調査で見つかった、地震や洪水、火山の噴火、豪雨等による被災を示す痕跡のことです。例えば地震による噴砂脈や地割れ、洪水による砂の堆積、火災による焼土の堆積等です。また、噴火により降り積もった火山灰を処理して耕作地を確保する天地返し等、災害後の人々の行動も、災害痕跡として捉えられます。

災害にはこれら自然災害のほか、火事など人的災害も含まれますが、いずれも人々の生活や生命を脅かす大規模な事態を指します。遺跡の発掘調査では、こういった災害の痕跡をとらえることができます。当日は上記のようなテーマの趣旨説明と、3件の基調報告があり、記念講演の後2件の事例報告、討論がありました。

### 基調報告1

「神奈川県内の災害痕跡」と題し、かながわ考古学財団の天野賢一氏が秦野市横野山王原遺跡で検出された江戸時代の宝永火山灰廃棄遺構を中心に、数多くの遺跡の災害痕跡事例を報告しました。

横野山王原遺跡の宝永火山灰廃棄遺構は、宝永4(1707)年の富士山の噴火により耕作地に降り積もった火山灰を、「天地返し」という方法によって

復旧したものとのことでした。特に、この遺跡ではその天地返しの痕跡が1万㎡を超える範囲にわたって検出されたこと等が報告され、このような広い範囲を面的に調査する発掘調査が、災害情報の把握という点において有効であることを指摘しました。

また、地震に関する痕跡の検出例として、足柄上郡大井町宮畑遺跡(縄文時代、奈良・平安時代)、矢頭遺跡(縄文時代前期)、秦野市渋沢奈良郷遺跡第Ⅱ地点(縄文時代、奈良・平安時代、江戸時代)、小田原市高田南原遺跡第Ⅱ地点(古墳時代~奈良・平安時代)、成田上耕地遺跡第Ⅰ地点(古墳時代~奈良・平安時代)の発表がありました。さらにその他の災害痕跡事例として、昭和13(1938)年の台風による斜面崩落があった伊勢原市浄発願寺奥の院、幕末の大火や関東大震災の痕跡が確認された横浜市中区山下居留地遺跡が報告されました。

### 基調報告2

「東京都内の遺跡にみられる災害痕跡」と題し、東京都埋蔵文化財センターの寺西朗平が、東京都内の災害痕跡の検出例について報告しました。

報告ではまず、多摩ニュータウンNo.194、210、300、330遺跡や館町龍見寺裏山地区遺跡における地震痕跡として、縄文時代の陥し穴土坑や竪穴建物等にみられる遺構のずれや地割れ等を紹介し、人々が生活していく上で、災害を避けることが非常に難しいことを示しました。次に江戸時代の災害痕跡として、江戸城跡北の丸公園地区、三の丸地区や愛宕下遺跡における火災の痕跡を報告し、特に江戸における火災について、当時の人々が災害を避けるためどのような対策をとったのかを紹介しました。

また、江戸城北の丸公園地区では3面の焼土の堆積が確認され、これにより当該地ではそれぞれ異なる時期に3度の火災があったものと推定されましたが、そのうちの1層については、符合すると考えられる火災が当時の文献史料に見当たらず、記録に残されていない火災の存在を発掘調査成果が明らかにする手がかりとなった例を紹介しました。

### 基調報告3

「遺跡から見た災害と復興」と題し、埼玉県埋蔵文化財調査事業団の水村雄功氏が埼玉県内の地震痕跡、洪水痕跡、火災痕跡について報告しました。

埼玉県内では、地震痕跡として深谷市上敷免遺跡（古墳時代前期から平安時代）で噴砂や地割れ痕跡、行田市築道下遺跡で噴砂や地割れ、地滑り痕跡、加須市宮東遺跡で噴砂痕跡が見つまっている等、多くの例が検出されているとのことでした。

特に深谷市血沼西遺跡では、地震によって柱が沈降した掘立柱建物跡が検出され、その時期が9世紀第1四半期であったことから、平安時代の弘仁9（818）年に発生し、北関東地域に被害を及ぼした地震（弘仁地震）により被災したと考えられ、遺構の年代が分かったほか、復興し10世紀まで引き続き集落が営まれたことが明らかとなりました。

洪水痕跡として紹介された羽生市東畑遺跡の天地返しは、浅間山の噴火により利根川の河床が上昇して起こった洪水に対する復旧作業と考えられるもので、度重なる洪水被害に対してその都度復旧作業を行っていた事を示すものとのことでした。

また、久喜市の栗橋宿本陣跡では、19世紀初頭から中頃と考えられる層位で、焼土層や火災で焼けたとみられる瓦や陶磁器、炭化した建築部材等が廃棄された土坑等、火災に関連する遺構が見つかり、これらの火災関連遺構が、史料に残る文化7年（1810）と文政5年（1822）の「栗橋宿大火」の痕跡であるかどうか明らかにすることが今後の課題であるとのことでした。

報告では、発掘調査により明らかとなった当時の被災状況や復旧、防災対策等は、将来の災害発生に対し、防災・減災のための対策を講じるために有効な情報となること、またそれらの情報開示の必要性が指摘されました。

### 記念講演

「歴史史料からみた災害の復旧 一江戸時代を中心に」と題して、元国立歴史民俗博物館客員教授の北原糸子先生にご講演頂きました。

江戸時代に発生し、江戸市中に大きな被害をもたらした元禄地震（1703年）と安政江戸地震（1855年）の復旧において、江戸城の石垣修築を幕府がどのような方法で行ったかを、大名手伝普請や人足の調達方法等の仕組みを比較して説明されました。

また、宝永地震（1707年）における災害復旧はどういうものであったかについて、駿府城の石垣修築や東海道筋の修築の記録を説明されました。

元禄地震の際には、幕府が早急に諸大名に大名手伝普請を命じ、大名は国元からの人足に加え、不足分の人手は請負商人を通じて調達するといった、封建的側面の強い災害復旧策がとられた一方、幕末の安政江戸地震の復旧では、大名家が人足の派遣を普請請負町人に託す等、費用の負担や作業の効率化という点で時代背景に応じた合理的な方式がとられていたとのことでした。さらに災害復旧のインフラ整備として集中的に資金を投じることで市場の活性化も視野に入れた幕府の災害救済策を説明頂き、江戸時代では大災害時にどのようにして人々が困難な状況を乗り越えたのかを知ることができました。

### 事例報告1

「蓑毛小林遺跡の土石流」と題し、かながわ考古学財団の吉澤健氏が、秦野市蓑毛小林遺跡で検出された土石流痕跡について報告しました。土石流痕跡は丘陵部の緩斜面に検出され、旧石器時代、奈良・平安時代と、中世から近世の3時期に分かれると考えられ、堆積状況等の詳細な報告がありました。

### 事例報告2

「柳川竹ノ上遺跡の地すべり一地すべりの発生した時期を想定する」と題して、かながわ考古学財団の諏訪直子氏が、柳川竹ノ上遺跡において検出された5箇所地すべり痕跡について、テフラを分析することにより、発生した時期を、縄文時代中期以降、弥生時代初頭以降、弥生時代中期以前、9世紀以降、関東大震災（1923）によるものと想定しました。

### 討論

基調報告と記念講演を受け、災害痕跡の年代を想定するに際してどのような分析を行っているか、という点について意見が交わされました。年代の想定は、史料に残された記録と照合していくほか、検出されたテフラ等を自然科学的に分析することで、より正確なデータが得られるものとなるといった指摘があり、これらの詳細な分析とその成果の積み重ねが今後の課題であるとのことでした。

当日は、157名の方にお越し頂きました。来年度は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団の主催で開催される予定です。（寺西 朗平）

港区 信濃飯山藩本多家屋敷跡遺跡

しなのいいやまはんほんだけやしきあといせき

所在地：港区高輪三丁目 13 番 57

調査期間：2018 年 7 月～2020 年 2 月(予定)

調査面積：7,780 ㎡

信濃飯山藩本多家屋敷跡遺跡（港区No.64遺跡）は、JR品川駅の西方約500mの、グランドプリンスホテルなどが立ち並ぶ台地縁辺部に位置しています（図1）。

これまでに縄文時代、奈良～平安時代、中世、近世の遺構・遺物が検出されており、絵地図によると江戸時代には信濃飯山本多家の屋敷があったことが知られています。

しかし今回の調査では、これらの時代の遺構・遺物以外に弥生時代の遺構・遺物が多く検出されています。これまでに発掘調査された面積はまだ全体の四分の一程度に過ぎず、調査は現在も継続中ですが、これまでに得られた成果について紹介します。

発掘調査は、調査区域を全部で6区に分けて行っています（図2）。2019年2月現在、A区・B区までの調査が終了し、C区・D区の調査が行われています（D区は表土掘削中）。

調査区はいずれも現代に至るまでの土地利用や、植物の根などで著しく攪乱されていますが、A区では弥生時代の竪穴建物跡2軒、古代の竪穴建物跡2軒が検出されました。

B区では弥生時代の竪穴建物跡4軒、古代の竪穴建物跡2軒、近世の地下室・土取穴・焼土廃棄土坑（火事によるゴミを捨てた穴）9基が検出されました。

このうち特筆すべきは古代の7号竪穴建物跡です。一部が調査区外にあたるため全容を調査できたわけではありませんが、それでも方形を呈する竪穴建物跡の一边は7m近くあり、都内では稀有な大

型の竪穴建物と言えます。カマドは竪穴建物の北側で2基検出されており、1基は完全に壊された状態、もう1基は半ば壊された状態で検出されました。竪穴建物を拡張するにあたって古いカマドを壊し、新しいカマドを作ったものと考えられます。新しいカマドが壊されていたのは、竪穴建物を廃絶するにあたってカマドを壊す何らかの儀礼行為が行われたためと考えられます。柱穴も作り替えられた痕跡があることから、少なくとも二度にわたって拡張・建替えが行われた建物跡であると考えられます。また、建物跡の壁面には、垂直方向に無数の細い杭状の痕跡が残されており、壁面を保護する土留めの痕跡ではないかと考えられます。

B区で検出されたもう一軒の古代の竪穴建物跡である8号竪穴建物跡からもカマドが検出されています。8号竪穴建物跡のカマドは比較的形を保って検出されており、7号竪穴建物跡とは異なり竪穴建物の廃絶に伴う儀礼は行われなかったようです。

近世の焼土廃棄土坑は、調査地点のなかで主に敷地の西側の際に道路に添うように南北に並んでいることが見てとれます。敷地西側の道路は絵地図にも載っていることから、江戸時代から利用されていた道に沿って焼土廃棄土坑が作られていたようです。

C区では弥生時代の竪穴建物跡10軒、近世の焼土廃棄土坑・井戸4基、溝7条、土坑、近代の基礎、硬化面などが検出されています。

弥生時代の11号竪穴建物跡の床面からは、倒木痕が検出されました。倒木痕の覆土から縄文土器片が検出されたことから、縄文時代までそこに



図1 信濃飯山藩本多家屋敷跡遺跡の位置

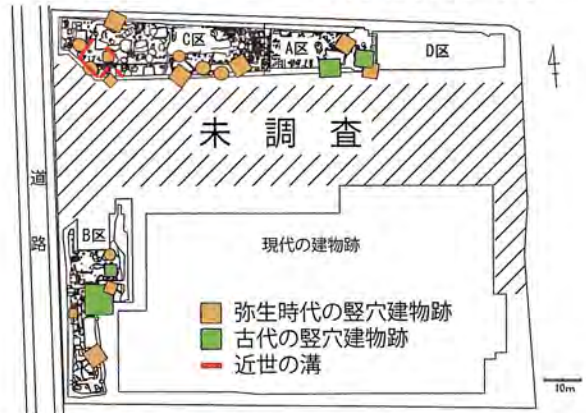


図2 検出遺構配置図（2019年2月現在）

立っていた木が倒れ、雨や風などで運ばれてきた土で長い年月をかけ倒木痕が埋まったのち、弥生時代の人間が竪穴建物こうちくを構築するためにその場所を掘削した、という経緯が推測できます。弥生時代の13号竪穴建物跡からは台付甕たいつきがめの脚部などを含む土器片が集中して検出されており、今後の整理作業の結果によってはこれらの土器片が一個体もしくは二個体に復元できる可能性があります。

近世の溝はいずれも北東から南西方向、もしくはそれと直交する北西から南東方向に伸びており、区画溝くわくみぞである可能性が考えられます。

遺物は弥生時代や古代の各時代の甕たかつきや高坏といった土器、砥石などの石器のほか、7号竪穴建物跡からは滑石製の紡錘車かっせせい ぼうすいしやが検出されています。焼土廃棄土坑からは17世紀後半の笠原鉢かさらはちや播鉢すりばち、瓦などが主に検出されています。

調査範囲の大半で攪乱によって遺構が失われているにもかかわらず、これまでの調査で弥生時代の竪穴建物跡が調査区全体で数多く検出されています。未調査の範囲でも同様に竪穴建物跡が残されている可能性は高く、今後の調査に期待がかかります。

(橋本 望)



写真3 8号竪穴建物跡のカマド



写真4 C区西側の弥生時代の竪穴建物跡（白線内）



写真1 弥生時代の竪穴建物跡



写真5 近世の区画溝



写真2 7号竪穴建物跡



写真6 近世の焼土廃棄土坑（瓦や焼土が見える）

多摩ニュータウンNo. 342 遺跡は、京王相模原線多摩境駅のすぐ北東側に位置します。多摩川水系と境川水系の分水界から南へと延びる尾根と、それを取り巻く斜面地に立地し、尾根に立つと、相模側の眺望が開け、丹沢の山容が望めます。

本遺跡の調査面積は、約 20,000 m<sup>2</sup> に及び、1989 年から 1990 年にかけて発掘調査を行いました。No. 342 遺跡では、旧石器時代から近世以降の多様な遺構と遺物が検出されましたが、その中で特に須恵器窯跡の調査が感慨深い記憶として残っています。

この須恵器窯跡、すなわち小山窯は、尾根頂部に近い斜面地に単独 1 基で検出されました。



多摩ニュータウンNo. 342 遺跡・小山窯

この小山窯の存在は、1987 年度に実施した基礎調査により確認されていました。まさに記念碑的な試掘坑と言えます。小山窯の調査は、窯体構造の遺存が良好で、しかも出土遺物も豊富なこともあり、悩みながらも活気のある調査となりました。調査の結果、小山窯は 7 世紀後半に操業し、東京都で最も古い窯跡であることがわかりました。そして、我々を驚かせたのは、小山窯で焼かれた須恵器の内容でした。精巧につくられた多種多彩な須恵器が焼成され、都と遜色のない須恵器が焼成されていたのです。それらの中には、金属器を模倣した製品も認められ、遠く中国大陸の文化に通じるものもありました。また、陶硯、つまり硯も焼造されていました。硯は古代の役所の必需品で、ここでつくられた硯が初期官衙遺跡に供給されたことは間違いのないでしょう。言い過ぎかもしれ

ませんが、東国の武蔵と相模の国境地帯の山の中で、小山窯の 1 点だけが飛鳥の都と、点と線でつながっていた、そんな想像が勝手に頭の中を巡ってしまうほど、強烈な印象として残りました。律令国家への胎動がはじまっていたのです。

平成の幕開けとともに、多摩ニュータウン地域相原・小山地区の調査は本格化しました。1990 年頃、多摩境駅の周辺には、多い時で 4 グループの調査班が投入され、まさに丘陵全面に調査が及ぶ勢いでした。No. 248 遺跡で縄文時代の粘土採掘坑群

と瓦窯跡、No. 245 遺跡で縄文時代の土器づくりのムラ、No. 944 遺跡で武蔵国分寺創建期の瓦窯跡な

# 1/964

多摩ニュータウン地域では、964 ヶ所もの遺跡が確認されています。その中から調査担当者の記憶に深く残る遺跡について、リレー方式で振り返っていきます。

# 40 多摩ニュータウン No. 342 遺跡

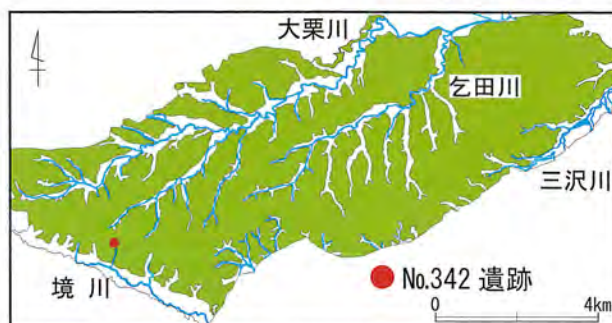


小山窯の須恵器

ど、重要な遺跡の調査が目白押しでした。

No. 342 遺跡の調査は、こうした遺跡群調査のハイライトシーンにも立ち会い、しかも都の文化の一端を肌で知る貴重な体験となりました。さらに、小山窯の発見につながった基礎調査、1 m 四方の試掘坑を掘り、遺跡の有無や状態を調べる基礎調査という地道な作業の積み重ねの大切さも実感しました。

(鶴間 正昭)



多摩ニュータウンNo. 342 遺跡位置図

## 平成31年度企画展示

# 『ひと×いきもの』へのご招待

長年にわたり、様々なテーマで取り組んで参りました当センターの企画展示ですが、新年度は、少し違う視点から考えてみようということになりました。

題して、平成31年度企画展示

## 「ひと×いきもの」

です。

ひとはいきものどどのように関わってきたのか、いきものはひとにどのような影響を与えてきたのか、素朴な疑問を今まで見逃してきたような気がします。

展示では6つのセクションテーマを設定し、関連する考古資料からわかる、動物や植物、菌類などとの関わりを探っていこうと思います。

### ◆獲

狩猟・採集が生活の基盤であった縄文時代において、動物は食糧としてだけではなく、皮や骨も貴重な資源だったことが分かっています。

ここでは狩りや漁労などの道具だけでなく、動物資源を利用したいくつかの道具も紹介しています。

### ◆採

植物も貴重な資源ですが、ひとはどのように関わってきたのでしょうか。食糧としての重要性はもちろんのこと、縄文時代の遺跡からは、木材や繊維の獲得、加工、さらには「漆」の利用などがわかる資料がみつかっています。植物の特性を十分に理解し、生活のあらゆる場面で活用していたのです。

### ◆育

弥生時代以降に大陸から農耕をはじめ様々な文化や技術が伝わると、日々の暮らしは大きく変わりました。遺跡からは、籾や粟の圧痕が残る土器片や、農耕に使った馬具や農具、江戸時代の麴作りの道具や発酵食品の名が記された容器の蓋、味噌と書かれた荷札など、いきものを育て利用するようになったことを示す資料がみつかっています。



埋葬された縄文犬の頭蓋骨

### ◆友

犬は人類最古の家畜といわれ、遥か昔からひとと共にありました。

ここでは日本最古

の縄文犬の埋葬骨と江戸時代の大名家敷で飼われていた愛玩犬の埋葬骨を紹介しています。丁寧に埋葬された状態を見ると、「いつも一緒にいる友」と言えるような関係を築いていたのではないのでしょうか。

### ◆愛

江戸時代になると、庶民の間でも動物を飼ったり、鉢植えを育てたり、いきものを愛でることが一般的になります。

いきものを模った

土人形、小鳥のための小さな餌入れ、ネコと思われる足跡のついた土器など、愛すべきいきものたちが身近にいた痕跡をご紹介します。

### ◆祀

動物意匠が施された縄文土器は祭祀に用いられたとの説があります。ひとはあらゆる種の動物に神聖なものを見出すことがあったのです。

祭祀遺物に動物が象られることは、縄文時代に限らず、後

の時代の資料からも明らかで、いきものがひとの精神世界にも影響を与えていたことがわかります。

「ひと×いきもの」

今回は6つのテーマを設定しましたが、これだけで語りきれるものではありません。展示をご覧いただいて、皆さんりの様々なテーマを感じて、そして明日を考える機会になれば幸いです。

(武笠 多恵子)



サルの土人形



勝坂式土器(双蛇把手土器)



伝伝神陵古墳出土水鳥埴輪

# 平成31年度 行事のご案内

※印は新規行事

催事名	日 時	対象/人数	申込方法ほか
東京都埋蔵文化財センター主催 文化財講演会	第1回6/22(土) 第2回9/28(土) 第3回11/23(土・祝)	13:30~15:30	各回とも先着100名
東京都埋蔵文化財センター 多摩市教育委員会主催 文化財講演会	第1回2/5(水) 第2回2/12(水) 第3回2/22(土)	13:30~15:30	各回とも先着100名
遺跡発掘調査発表会	3/20(金・祝)	13:30~15:30	先着100名
企画展示オープン解説会	3/20(金・祝)	10:30~11:30	参加自由
映像上映会『オオカミの護符』	1/18(土)	13:30~15:30	参加自由
学芸員ギャラリートーク 大昔の多摩を語る※	①6/16(日) ②9/14(土) ③10/22(火・祝) ④12/15(日)	午前の部 10:30~11:30 午後の部 14:00~15:00	各回とも参加自由
夏休み特別企画① 学芸員と一緒に展示を見よう※	①7/25(木) ②8/1(木) ③8/8(木) ④8/15(木) ⑤8/22(木) ⑥8/29(木)	10:30~11:30	各回とも参加自由
夏休み特別企画② 学芸員に聞こえ※	①7/24(水) ②7/31(水) ③8/7(水) ④8/14(水) ⑤8/21(水) ⑥8/28(水)	午前の部 11:00~12:00 午後の部 14:30~15:30	各回とも 小中学生/先着5名
夏休み低年齢向けワークショップ① 「折り紙で大昔の家をみてみよう」※	①8/13(火) ②8/15(木)	①午前 11:00~12:00 ②午後 14:30~15:30	①②とも参加自由
夏休み低年齢向けワークショップ② 「縄文土器の模様を写し取ろう」※	①8/8(木) ②8/13(火)	13:30~15:30	開催時間内参加自由
都史跡No.57遺跡 (遺跡庭園)を解説する※	12/8(日)	10:00~15:00	当日時間内随時受付
縄文土器の野焼き 多摩の縄文土器を作ろうで製作した土器の野焼き	①8/17(土) ②9/29(日)	9:30~13:30	開催時間内見学自由
縄文ワクワク体験まつり	4/27(土)・28(日)	10:00~16:00	開催時間内参加自由
「縄文の村」自然観察会	①4/13(土) ②10/5(土)	10:00~12:00	①②とも一般/20名
多摩の縄文土器を作ろう	製作 ①7/20(土) ②7/21(日) ③9/7・8(土・日) 野焼き ①8/17(土) ②8/17(土) ③9/29(日)	製作 9:30~16:00 野焼き 9:30~13:30	①②親子/20組 (小学4年生以上) ③一般/25名 製作と野焼きの全て に参加できる方
土偶レリーフを作ろう	①7/25(木) ②8/1(木)	13:30~15:30	①②とも/親子16組 (小学4年生以上)
勾玉・耳飾りを作ろう - 滑石のペンダント -	①6/8(土) ②8/22(木)	13:30~15:30	①一般/30名 ②親子/16組 (小学4年生以上)
コハクの勾玉を作ろう - 再生コハクのペンダント -	①5/18(土) ②5/18(土)	①午前 10:00~12:00 ②午後 13:30~15:30	①②とも一般/25名
植物の繊維から糸を作ろう - カラムシでストラップ -	6/29(土)	10:00~15:00	一般/20名
縄文時代の布を再現しよう - あんぎん編みでコースター -	8/10(土)	10:00~12:00	親子/16組 (小学4年生以上)
古代の火おこし道具を作って 火を起こしてみよう	8/10(土)	13:30~15:30	親子/15組 (小学4年生以上)
ガラスでトンボ玉を作ろう	①7/6(土) ②10/19(土)	9:30~11:00 11:30~13:00 14:00~15:30 の希望する時間帯	①②とも各時間帯に つき一般/6名
貝で縄文の腕輪を作ろう - ベンケイ貝の腕輪 -	10/5(土)	13:30~16:00	一般/15名
縄文食体験	11/2(土)	10:00~13:00	親子/15組
考古学講座①※ - 石器を学ぶ・石器作り -	11/9(土)	10:00~16:00	一般/10名 2回連続で参加できる方
考古学講座②※ - 石器を学ぶ・石器実測 -	11/16(土)		
考古学相談室	通年(土日は除く)	10:00~16:00	参加自由

- 往復はがきでのお申込みは、行事名・住所・氏名・年齢・電話番号をご記入のうえ、〒206-0033 多摩市落合1-14-2 東京都埋蔵文化財センター「〇〇〇(行事名)」係宛まで。
- 「一般」は中学生以上、一般対象の行事は、お一人につき1通の往復はがきが必要です。
- 親子対象の行事は、小学校4年以上の子供と保護者が対象です。代表者のほか、2名まで参加可能。往復はがきに参加者全員の氏名・年齢もご記入のうえ、お申込みください。
- Webでの申込みは、当センターホームページ内のイベント申込入力フォームによりお申込みください。
- いずれの行事も応募者多数の場合は、抽選になります。
- ご記入いただいた個人情報は、該当事業実施の目的のみに利用します。利用目的にご同意の上、お申込みください。

お問い合わせ先(平日のみ9:00~17:00):東京都埋蔵文化財センター 経営管理課広報学芸担当 :電話042-373-5296

ホームページ: <https://www.tef.or.jp/maibun/>

※今号の表紙: 港区信濃飯山落本多家屋敷跡遺跡で検出された古代の大型竪穴建物跡。人が立っているところが柱穴。



たまのよこやま 116

2019年3月29日発行

東京都埋蔵文化財センター 〒206-0033 多摩市落合1-14-2 TEL 042-373-5296 <https://www.tef.or.jp/maibun/>